

調査 LOBO 早期景気観測

7月分 日商調査日 7月6日～16日
当所調査日 7月6日～20日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

7月の全産業DI ▲24・1
(前月比+2・6ポイント)

○中小企業の景況感

米国・中国向けの需要が堅調な半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業が牽引したほか、飲食料品・家電製品など巣ごもり消費に下支えされた小売業の業況感が改善した。

一方、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に伴い、営業時間短縮などの活動制約が続く飲食業や観光関連のサービス業では、需要回復・業況改善が見通せず、厳しい状況が続く。

また、卸売業を中心に食料品や鉄鋼などの原材料価格の上昇や、物流費のコスト増加の影響を指摘する声は多く、中小企業の景況感は持ち直しの動きがみられるものの、回復に力強さを欠く。

○先行き

先行き見通しDIは、▲27・2（7月比▲3・1ポイント）。

高齢者を中心としたワクチン接種の進展により、経済活動の正常化に伴う

需要の回復などに期待する声が聞かれる。

一方、変異株による感染再拡大への警戒感が増す中、国・自治体からの活動制約要請の長期化に伴う受注・売上減少による業績悪化の継続や客足回復の遅れ、原油を含む資源・原材料価格の上昇などを要因とする採算悪化を懸念する企業は多く、先行きは依然として厳しい見方が続く。

【関東ブロックの業況コメント】

多様な働き方の推進のため、副業・兼業は積極的に推進しているが、現在は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から一時中止している（一般産業用機械製造業）。

民間工事の受注低迷が続いており、公共工事の受注競争が厳しくなっている。また、新型コロナウイルスの感染対策や熱中症対策などの衛生管理のコスト負担が増大している（管工事業）。

【当所調査】

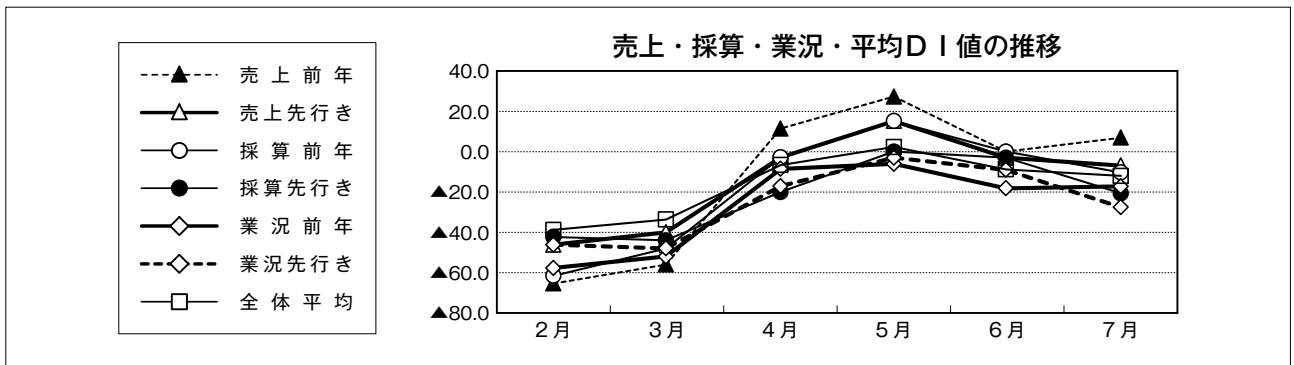
「全体平均DIは前月に比べ減少」

全体平均DIは▲12・1で前月に比べ▲3・3ポイントの悪化。項目別では、採算先行きが▲17・7ポイント、業況先行きが▲18・5ポイントと各項目に悪化がみられ、依然厳しい状況である。

寄せられたコメントには、「オンラインピックの交通規制による配達遅延で、供給不足が予測」（管工事業）、「オンラインピックによる、運行的受注があった。」（観光バス・旅行業）、など、良悪共にオンラインピックによる影響が多く挙げられた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和2年		令和3年				
	7月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上前年	▲ 80.0	▲ 65.4	▲ 56.0	▲ 11.4	▲ 27.3	▲ 0.0	▲ 6.9
売上先行き	▲ 63.3	▲ 46.2	▲ 40.0	▲ 2.9	▲ 15.2	▲ 3.0	▲ 6.9
採算前年	▲ 76.7	▲ 61.5	▲ 48.0	▲ 2.9	▲ 15.2	▲ 0.0	▲ 10.3
採算先行き	▲ 66.7	▲ 42.3	▲ 44.0	▲ 20.0	▲ 0.0	▲ 3.0	▲ 20.7
仕入前年	▲ 36.7	▲ 26.9	▲ 36.0	▲ 28.6	▲ 36.4	▲ 45.5	▲ 48.3
仕入先行き	▲ 36.7	▲ 30.8	▲ 48.0	▲ 28.6	▲ 24.2	▲ 42.4	▲ 34.5
社員前年	3.3	0.0	16.0	20.0	21.2	15.2	20.7
社員先行き	3.3	0.0	8.0	14.3	9.1	12.1	13.8
業況前年	▲ 73.3	▲ 57.7	▲ 52.0	▲ 8.6	▲ 6.1	▲ 18.2	▲ 17.2
業況先行き	▲ 63.3	▲ 46.2	▲ 48.0	▲ 17.1	▲ 3.0	▲ 9.1	▲ 27.6
資金前年	▲ 43.3	▲ 46.2	▲ 24.0	▲ 5.7	▲ 3.0	▲ 0.0	▲ 6.9
資金先行き	▲ 33.3	▲ 42.3	▲ 32.0	▲ 11.4	▲ 6.1	▲ 12.1	▲ 13.8
全体平均	▲ 47.2	▲ 38.8	▲ 33.7	▲ 6.7	▲ 2.3	▲ 8.8	▲ 12.1



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。